

「第6回“本気”で語ろう会」 会議録

| | |
|-----|--|
| 団体名 | 修学旅行の民泊受入を行っているグループ |
| 日時 | 平成26年8月19日(火)18時00分から19時50分まで |
| 場所 | 中央公民館 |
| 参加者 | 修学旅行の民泊受入を行っているグループ(堀之内 節子 様 外14名) 市長、原口副市長、福井副市長、市長公室長、企画監、農林水産課長 商工観光課長、広報広聴課長 |

1 民泊を受け入れる効果について

提案：修学旅行生の受入により、二人だけの家庭に若い人たちが入ってきて会話が弾み、準備の中で夫婦の会話もあり家庭まで活性化する。また、民泊についてはボランティアというわけではなく、収入もあるので民泊受入をしたことがない方達にももっとPRして受入家庭を増やしていきたい。

自分自身も、初めての受け入れのときは、この地域には街灯が無く、映画館も無く、こんな田舎でマイナスの要素しかないのではと思っていたが、都会の子たちにはプラスのようで、きれいな星空や、暗い夜が終って眩しい朝が来ることなど、自分たちには当たり前のことが、生徒さんたちには新鮮で感動するようだ。

また、近くの牛舎に連れて行くと、臭くて気分が悪くなる子もいるが、その生産現場があってこそ食糧があることも覚える。人間より、猪や狸が多いような現実があるが、ここを守らないと耕作放棄地になってしまうので、交流人口を増やしていくことにより、みんなが地域をきれいにする。そういう努力によって農村は守られるし、民泊する子供たちにも喜ばれるので、受入家庭を増やして、ローテーションを組んで受け入れていきたいと思う。

提案：里芋を作っているが、子供たちが来たときに皮をはいで油で揚げて食べさせたら、初めて食べたようですよと喜んで。お土産に里芋を持たせてあげたら、家に帰ってから親に作ってあげたようだ。

また、正月に色々地産の物を送ったら、本当に美味しいと感謝の手紙をもらった。都会の方はお店が沢山あり便利な生活をしているが、もしかすると、本物を食べていないのではないかと思った。

提案：県外で鹿屋のことを「かや」と言っていたが、甲子園での中央高校の活躍で「かのや」という名前が出てきたことが、民泊にとっても大きなPRとなった。

観光資源は年をとらないので、「かのや」という名前を覚えてもらうことで、民泊に来た子供たちが大学生等になったとき鹿屋を思い出してもらえれば、とても良いことだと思う。

提案：修学旅行生が来たとき、体育大学の学生さんと交流してもらっているが、学生さんが子供たちに「ここ来るのは贅沢な事だから親に感謝しなさい」と話していた。学生さんは「自分たちも実家にいた頃は、家に帰るとご飯や洗濯がしてあるのが普通であったが、一人で生活するようになると、本当に親のありがたみを感じるよう

になった」と話していた。

提案：民泊の研修に行って参加者に話を聞くと、自分の「まち」がいかに素晴らしいかを自覚している。自分自身は地元の観光や歴史等よく分からないことがあったが、子供たちを受け入れることで、自分が勉強し知ることになる。この地域にどんな歴史的な経過があり、自然環境等がどうなのか。そういったことを勉強できる。

自分の町内に何人か受入があれば、町内の安全対策や、環境対策に関する地域の人たちの協力など含めて、自分の故郷を誇りに思う良いきっかけになる。

提案：ある民泊満足度のランキングで、1位が沖縄。2位が鹿児島。3位が熊本・宮崎という記載があり、九州が外から見られているのだなと感じた。

民泊をどんどん受け入れて、子供たちに平和学習をしてもらいたいが、鹿屋はよい史料館があり、そこに連れて行くと防衛大に入って鹿屋に帰ってきたいと言ってくれる。私たちのやっていることは、微力だけど無力ではないと感じる。

将来、大人になってから、もう一回鹿屋に行きたいと考えてもらえればうれしい。民泊受入のために情報を集め自分たちも勉強し、観光や地域の活性化にも繋げられ大きなメリットがある。

回答：民泊で受け入れて良かったという意見を色々と聞かせていただいた。農村社会の教育力や、それ以上に思ったのが、皆さんが子供たちから学び、地域のことを再発見し、地域のよさを知ることによって双方にメリットがあるということ。

大分県の人と民泊について話をしたことがあったが、大分県では農林漁家民宿として宿泊の営業許可を取得しないと民泊受入ができない。民泊は食事や体験のセットでお金をもらうので、今後の所得効果を考えると、旅館業法に基づく簡易宿泊を取ることも必要であり、農家民泊からもう一步進むとすれば、宿泊許可により学生だけでなく普通の旅行者を受け入れることも良いのではないかと思う。

民泊は、双方にとってWIN・WINの関係で大きな効果がある。

回答：鹿屋の観光上の課題は、観光地を磨くことも大事だが、受け入れの宿泊施設がないことである。今後、民間が受入施設を作ることも難しい。

来年もちびっこソフトがあるが、分散して民泊するなど鹿屋方式の宿泊体制ができればよいと思う。例えば、大隅に分散した民間の施設があり、市や県でバスを出してお風呂も含めて送迎し、宿泊機能を高めれば良い雰囲気になるのでは。

回答：自己啓発のために頑張っていることに感激した。この地域をどうやって成り立たせていくかを考えたとき、民泊は多少の収入にもなるし、地域で取り組みばコミュニティが発達していくのではないかと思うので、行政も一緒に取り組んでいきたい。

回答（副市長）：単身赴任で来ているが、先日から家族も来ている。休日に色々回るのが楽しみであり、子供も生まれて初めての海水浴や、牧場で豚を触ること等体験

できて本当に面白いと思う。本当に鹿屋は色々な資源があり面白いと思うが、市の職員も鹿屋は何もないと言う人もいて、もったいないと感じる。

提案： 修学旅行は教育的な部分もあり、体験や平和学習があるわけだが、鹿屋もあるのに知覧に行ったりする。鹿屋の場所を知らない人も多いので、鹿屋をもっとアピールすることが大事である。

2 民泊受入の仲間や地域を増やす必要性と受入体制について

提案： 民泊受入について、みんなに声をかけると、布団・ご飯の心配や体験メニューの心配など重く考えている。孫が帰ってくるぐらいの気持ちで良いのだよと話するものの、なかなか踏ん切りがつかないようだ。

子供たちは運動靴だけで来るので、危なくない環境の中で裸足になってもらって自然に触れさせている。そして、お茶を飲むよと声をかけて、山を見ながら一緒に漬物を食べるのが私達の生活。車も通らないような所だが、それでよいと思う。

体験については、商工観光課も一生懸命やっているが、農家との接点がないので、農林水産課も一緒になり農業体験等を紹介してほしい。

提案： 農家以外の方は、何を体験させればよいのかという話を聞くが、例えば、暗闇の中で星空を見せても感激するし、庭で食事とかも喜ぶので、それだけでもよい。

また、何か提供できる人たちで組んで、我が家は菜園、我が家は焼き物、我が家は動物体験など、仲間を増やせばサラリーマンでも受入ができる。子供たちに何をさせようと考えたら、自分も新たな体験をみつけだすことになるので、みんなでネットワークを広げていけば、それがエネルギーにもなる。バラ園や特産品の加工など、会員が趣味でやっているだけでなく、広げていかなければならない。

提案： 農家は、忙しい時期に民泊を受け入れると仕事が回らなくなる。そこで、体験を他の人に任すことも、間口を広げる一つの手立てとしてよいのでは。

都会の方は、自然にすごくあこがれる。外から田舎を見る目と中から見る目では意識差がある。そういう意味では、体験を農業にこだわらなくてもよい。

提案： 地域の活性化のためには、地域の昔からの考えにとらわれず、周りからのものも取り込んでやっていければよいと思うが、結果、屋久島のように人が来すぎて自然が崩れるのもよくない。グリーンツーリズムは緩やかでも良いのではと思う。それぞれの持ち味を発揮できるネットワーク的なものを作っていくことが、地域の活性化に繋がる。

提案： 私の住む地区は、それまで受入はなかったが、女子高生などが書いてくれた民泊受入の看板を見てやってみたいと思った。地域の人たちは、民泊受入自体を知らないのではないかと思うので、町内会で放送をしてもらえればグリーンツーリ

ズムなど知ってもらえるのではないかと思います。

提案：PRについて、垂水はメディアをうまく使っているが、鹿屋は少し控えめである。吾平地区と輝北地区はオフトークで周知もされるので、民泊を受け入れている時期は地域の人も声をかけてくれる。

提案：来年度は4クラスの146名が来る予定であり、44家庭が民泊の受け入れ先として必要となるため、みんなで取り組まないといけない。町内会長さんや市のOBの方などで、受入や人材活用ができれば良いと思うので、ぜひ取り組んでいただきたい。

回答：受入家庭を増やすには、体験と宿泊を切り分けて考えることが必要だと思う。OBにも話をしたが、グリーンツーリズムがよく分からない人も多いので、噛み砕いて、そんなに大変でもないよということを教えるのも必要である。

9月から10月の広報誌で民泊受入の募集をかけるので、私もやってみたいと手を上げる方がいれば、皆さんのところで子供たちと一緒に食事をとるなどの受入体験をしてもらいながら、ノウハウを教えていただきたい。

我々は広報などで掘り起こしをするので、地域でグリーンツーリズムの里を作れば面白いのではないかと。高隈や神野などでできれば話題性が高いと思うし、個人への補助というのは難しいが、地域に対してはお手伝いしやすい。

3 トレッキングコースなどの設定について

提案：グリーンツーリズムのブームもあり、トレッキングなどに行きたい人は、交通の便が悪い場所でも行く。九州自然歩道やトレッキングコースなど、山や自然に興味のある人は行くので、霧島から天球館、桜島、開門岳、そういったルートを作り、自然を生かして民泊から民宿へ繋げていきたい。

回答：トレッキングについては、高隈の魅力を出せるよう、「たかくまフロンティア会議」の中で協議している。色々なルートを設定しながら、デモツアーや施設整備をしているので、楽しみにしていただきたい。

4 民泊受入時の市長あいさつについて

提案：垂水市の民泊については、受入のとき市長があいさつをされるが、鹿屋市はあいさつをしていない。市長があいさつされると学校の方も感動されるので、ぜひ、お願いしたい。

回答：一度呼んでいただいたことがある。呼んでいただければあいさつに行くので依頼をいただきたい。

また、民泊のメディアへの露出を上げるには、少し変わったことをする必要があり、入村式も自衛隊の史料館など違う場所で行ってから引き渡すのもよいかもしれない。戦争遺跡などもあるので、整備するために調査しているが、そういったものも活用していただきたい。

提案：入村式など受入時のスケジュールは、旅行者を通じて固められているので、なかなか手が入れないかもしれないが、相談してみたい。